

令和4年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和4年度に実施された「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2292号農林水産省農村振興局長通知)第14の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和4年度に交付金事業を実施した東北農政局管内の16地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。その結果、優良と認められる地区が9地区、良好と認められる地区が2地区、総合的に低調と認められる地区が5地区との評価結果となった。総合的に低調と認められる地区に対しては、重点的な指導、助言等を行う。

3. 各地区の評価結果

16件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント	
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
東北	秋田県	大館市	大館市まるごと体験推進協議会		★		◆ ▼	△					C	事業実績の売上高及び延べ宿泊者数の達成率が低調となっているため、C評価となる。 令和4年度に新型コロナウイルスの流行が終息することを見込んだ数値としており、影響が続いたことから目標達成には至らなかったように見受けられるが、前年度と比較して、売上高及び延べ宿泊数がいずれも伸びてきている。 今後、本格的なインバウンド再開により、受入増加し目標値を達成することを期待したい。
東北	秋田県	仙北市	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会		★		◆						A	交流人口の増大及びFIT(個人旅行者)の推進を目的とする農家民宿の施設整備は計画どおり実施している。各施設ごとの売上高等の目標達成率は一部の施設を除き低いが、連携体施設で見るとほぼ目標は達成している。 今後は円安によるインバウンドの増加が見込まれる中、それへの対応が望まれる。連携する施設の1つも取りこぼさず、協議会全体が活性化していくためには、施設ごとに異なる達成率の要因について分析を行い、その結果を協議会全体で共有し、対応策を検討していくことが重要である。
東北	青森県	今別町	いまべつ町荒馬の里づくり協議会			● ▼	● ■ ▲						A	今別町民が大事にしている「荒馬まつり」をベースに、関係人口増に寄与したことがうかがえる。 特に「一球入魂かぼちゃ」「茶めし」「繭玉作り」のプログラムは、ねぶた祭が重なる時期の差別化になっており、高評価。運営側の人材不足もあるようだが、継続することで改善対策もできると思われる。 空き家拠点ワークショップも行うなど、まつりをフックにした地域活用による関係人口増が数字にあらわれており、今後に期待したい。

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント	
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
東北	岩手県	大船渡市	崎浜ヤンキーブランド実行委員会			●	● ■						B	取組内容は計画どおり実施されたものの、情報発信や民泊の登録手続きの遅れなどにより、令和4年度の目標達成に至るまでの実績を伸ばせなかったように思える。また、受入体制の基盤はできているものの、ビジネスとして継続するためにはさらなる体制の強化が必要と感じる。 今後は、本事業での取組を活用し、ビジネスとして継続していくためにも、スタッフを拡充した中核法人を中心に広域連携を図り、漁師の魅力発信することで、目標達成に向けて事業が発展していくことを期待したい。さらに、他の市町村との連携により農業体験もセットで提供できることは強みになる可能性がある。
東北	宮城県	石巻市	いしのまきグリーンツーリズム協議会			●	● ■ ▼	△					C	農泊事業としての実績は乏しいが、令和4年にスタートさせたクラフトビール醸造所や北上町を中心とする農村エリアへ誘導するため、集客及び送客のターゲットを石巻中心部及び近隣地域や北上エリアに設定し、SNSを活用したイベント告知、チラシ配布を実施したところ、近隣地域の他業者との協業につながりや認知度の向上により、おおむね目標の達成に必要な取組は行われている。 今後は、クラフトビール醸造所と映画上映及びミニマルシェをコンテンツとする農泊・体験プログラムの実施やプロモーション動画、広報冊子、SNSによる情報発信により認知度が上がることで、売上高及び延べ宿泊者数の増加につながっていくことを期待したい。
東北	宮城県	南三陸町	入谷の里山活性化協議会			●	● ■						A	協議会体制のもと、宿泊と食、体験プログラムのそれぞれが相乗的に効果を高めながら十分に機能している。目標年度の売上高、延べ宿泊者数は目標値をやや下回るものの前年度の実績値を大幅に上回り、また、食事提供数、体験プログラム参加数も目標値を大幅に上回っている。 竹皮弁当などユニークな食の提供や、農泊事業では難しいとされてきた人材育成へのチャレンジなど、不断の挑戦する姿勢が今後のさらなる地域の活性化につながるものと評価できる。
東北	秋田県	能代市	能代白神農泊推進協議会			● ▼	● ■ ▲						A	新型コロナウイルス感染症の影響があった中、計画どおり取組が実施され、予定数を超える食事メニュー、体験プログラムが開発されており、それらを農泊イベントの開催により実施、結果として目標を超える実績値を残していることは大いに評価できる。また、本事業での取組により、構築された組織の運用の確認もできている。 今後は、付加価値として高評価を得ているストレスケアプログラムを中心として、さらなる農泊の取組を推進し、通年で農泊プログラムの提供を足がかりに、所期の目的である地域の魅力づくりに波及していくことを期待したい。
東北	秋田県	大仙市	大仙地域活性化協議会			●	● ■ ▼	△					C	事業実績にはあまりつながっていないが、受入体制の整備と実施内容や滞在型プログラムの検討など、計画した取組は全て実施しており、また、体験コンテンツや食事メニューも計画どおり整備していることから、おおむね目標の達成に必要な取組は行われたと認められる。 売上高は前年度と比較し伸びてきているので、滞在型プログラム等の実施により、売上高及び延べ宿泊者数の向上に期待したい。

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント	
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
東北	福島県	いわき市	いわき市並木通り観光街づくり協議会			●	● ■						A	風評被害が続く「常磐もの」で多くのメニューが開発されたことは高評価。協議会メンバーである施設でのマルシェやいわき市がすすめるツール・ド・いわき等でメニューのPR活動、積極的な出店は評価できるところだが、肝心の農泊の推進にも注力していくことを検討いただきたい。
東北	宮城県	仙台市	作並温泉農泊協議会				● ▼	○ □ △					C	本事業への参画事業者の増加、体制づくりに重点をおき取り組んだため、事業目標である売上高及び延べ宿泊者数の実績は低調であるが、検討部会の開催や作並エリアのみではなく、新川、定義、秋保などの仙台西部周辺地域の同事業者等を対象に、農泊推進の取組や地域の課題、各事業者が抱える課題等についての意見交換や勉強会、また、農泊セミナー開催を通じ、地域全体の共通認識として、農泊推進の必要性について理解を深める取組を実施している。 今後、早急に新メニュー、体験プログラム等コンテンツの充実を図るとともに、広報、情報発信を本格的かつ積極的に行い、売上高及び延べ宿泊者数の向上につなげていく必要がある。目標達成に向けた取組については引き続き注視していく。
東北	秋田県	仙北市	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会				★		◇				A	施設の改修工事については、計画どおり実施し、OTAサイトの活用で独自に集客できる施設となっている。また、SNSによる積極的な情報発信やOTAサイトへの登録で、国内外から宿泊者を受け入れ、リピーターを獲得することができたことで、令和4年度の売上高、延べ宿泊者数は、目標値以上の成果を上げている。 今後も、事務局を中心にスムーズな受入準備、情報収集、また、各施設や他事業者との連携を密にしていくことで、さらなる収益向上が期待できる。
東北	山形県	山形市	DMOさくらんぼ山形				●	○ □					B	新型コロナウイルス感染症の影響があった中、実績値を目標に近づけたことは評価できるが、取組状況と実施体制がもう一步のように感じる。SNSディレクション業務の中止に象徴されるように、外部へ向けたメディア発信が効果的に機能していない。 令和5年度に地域協議会の設立を目指しているため、着実に用意を進め、受入体制を十分に整え、地域一体で取組を進めていくことで、目標達成に向けて着実に進んでいくことを期待したい。
東北	岩手県	奥州市	ころもがわ農泊地域協議会			●	● ■						A	ターゲットをタイに限定していることもあり、事業実績の売上高及び延べ宿泊者数の目標達成には届かなかったものの、海外からの入国制限があった中、実績値を残せたことは評価できる。また、本事業での取組により、体験プログラム開発、食事メニュー開発により受入体制の整備がされ、準備が整ったよううかがえる。 今後、本格的なインバウンド再開により、実績値が増加することを期待したい。
東北	宮城県	石巻市	牡鹿半島浜泊推進協議会			●	● ■						A	新型コロナウイルス感染症の影響がある中、対策を講じながら調整を行い計画どおりに事業を実施したこと、売上高は目標に達しなかったものの、インバウンドの延べ宿泊者数が目標値を大きく超えて達成していることは大いに評価できる。また、中核法人を中心として各構成員の役割を明確化させ連携しながら、受入体制を整えている。 今後、本格的なインバウンド再開に合わせて、本事業での取組の成果を活かして、目指す将来像の実現に向けて取組を進めていくことを期待したい。

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント	
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			
東北	宮城県	松島町	松島手樽を元気にする協議会			●	● ■						A	新型コロナウイルス感染症の影響があった中で、取組内容が計画どおり実施され、事業実績もおおむね達成されていることは評価できる。また、地域住民を巻き込んだ取組、各種広報ツールを活用した情報発信、モデルイベントの開催により、地域の認知度が上がり、拠点施設の年間来訪者数が増加していることは、優良な取組が進んでいるとして大いに評価できる。 今後、本事業で整備されたコンテンツを活用し、さらなる農泊の取組が、引き続き地域一体で推進されることを期待したい。
東北	福島県	石川町	石川町農泊推進協議会				● ■ ▼	△					C	連携団体と協議会の折りがつかないまま、できることを実施してきた姿勢は評価できる。ただし、インバウンド向けサイクリングコースの開発がこの事業のメインプログラムであることを考慮すると調整不足は否めない。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2292号農林水産省農村振興局長通知)第14の3の規定に基づき、第三者機関である「東北農政局農山漁村振興交付金評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:中村 勝則(秋田県立大学准教授)

委員:横田 純子(特定非営利活動法人 素材広場 理事長)、渡辺 理絵(山形大学准教授)

【令和5年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会

- 1 日 時 :令和5年7月13日(木) 10:00～11:00
- 2 場 所 :WEB方式
- 3 議事概要
 - (1)事業評価の考え方について
 - (2)評価対象地区について
- 4 主な意見
 - 事業実施主体から提出された書面により評価を行うのか。現地調査は行わないのか。

第2回評価委員会

- 1 日 時 :令和5年8月17日(木) 13:30～15:30
- 2 場 所 :仙台合同庁舎A棟1階会議室
- 3 議事概要
 - (1)評価結果について
 - (2)評価結果の活用について
- 4 主な意見
 - ・現地調査実施の際、地区の選定に当たっては委員とも調整してほしい。
 - ・C評価の地区について、改善が見られない場合は指導をし続けるのか。ペナルティはないのか。